

2011年9月30日

各位

三田ホテルマネジメント株式会社
株式会社春帆楼

**日本料理・ふく料理『三田 春帆楼』、鉄板焼『阜〜つかさ〜』
2011年10月15日(土)に新規オープン！
～「三田ホテル」2階レストランフロア内～**

2011年4月1日よりオリックスグループ直営のホテルとして運営を開始している「三田ホテル」(所在地:兵庫県三田市)は、2階レストランフロアに、日本料理・ふく料理『三田 春帆楼(しゅんぱんろう)』および鉄板焼『阜〜つかさ〜』を、10月15日より新たにオープンしますのでお知らせします。

『三田 春帆楼』では、ふく料理「春帆楼」(本店:山口県下関市)の伝統の味と巧の技をご提供いたします。「とらふく薄造り」や「とらふくちり鍋」などのふく料理(※)はもちろん、四季折々の旬の食材を使った日本料理をお楽しみいただけます。客席は、掘ごたつ式の個室のほか、スクリーンを活用した半個室もご用意し、ゆっくりお食事をお楽しみいただける空間を実現します。(※「ふく料理」…下関では、河豚(ふぐ)を“福”に通じるということで「ふく」と呼ばれています。)

『阜〜つかさ〜』では、最高品質の黒毛和牛として有名な地元三田の「三田牛」をはじめ、山海の厳選素材をシェフの華麗な手さばきとともにご賞味いただける、臨場感溢れる鉄板焼をご提供いたします。



【レストラン入口イメージ】



春帆楼

SANDA HOTEL SHUNPANRO

【日本料理・ふく料理『三田 春帆楼』概要】

店 舗 名： 日本料理・ふく料理『三田 春帆楼』

所 在 地： 兵庫県三田市けやき台1丁目11番2

三田ホテル内2階レストランフロア

営業時間： 11:30～15:00 ※土日祝 11:00～15:00
17:00～21:00 ※土日祝 17:00～21:30

T E L： 079-564-1101

座 席 数： ホール席38席、個室2室(8席)



【『三田 春帆楼』店舗内装イメージ】

ランチタイム

・ふく会席 3,000円～(税込サ別)

・ふく鍋コース 8,000円～(税込サ別)

ディナータイム

・ふく会席 5,000円～(税込サ別)

・ふく鍋コース 8,000円～(税込サ別)



【『三田 春帆楼』ふく料理イメージ】

【鉄板焼『阜～つかさ～』概要】

店 舗 名： 鉄板焼『阜～つかさ～』

所 在 地： 兵庫県三田市けやき台1丁目11番2

三田ホテル内2階レストランフロア

営業時間： 11:30～15:00 ※土日祝 11:00～15:00
17:00～21:00 ※土日祝 17:00～21:30

T E L： 079-564-1101

座 席 数： 16席



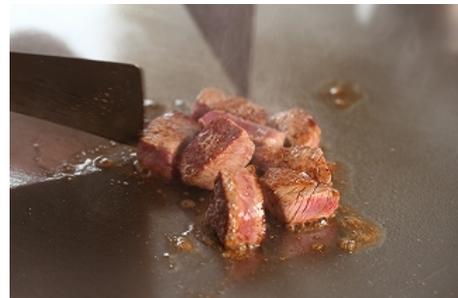
【『阜～つかさ～』店舗内装イメージ】

ランチタイム

・ランチコース 3,000円～(税込サ別)

ディナータイム

・ディナーコース 5,000円～(税込サ別)



【『阜～つかさ～』鉄板焼イメージ】

※価格は、変更する場合がございます。

※献立は季節・仕入れによって異なる場合があります。写真は全てイメージです。

<お問い合わせ先>

【春帆楼出店に関するお問い合わせ先】

株式会社春帆楼 営業部 宇佐見／TEL:03-6414-7268

【レストランの営業に関するお問い合わせ先】

三田ホテル 代表／TEL:079-564-1101



喜帆楼

SANDA HOTEL SHUNPANRO

■ 「三田(さんだ)ホテル」の概要

「三田ホテル」は、2011年4月1日にオリックスグループ直営ホテルとして生まれ変わりました。“三田(さんだ)”という地域に根ざしたコミュニティホテルとしての役割を担い、「あしたも会いたくなるホテル。」を目指します。

【所在地】 兵庫県三田市けやき台 1-11-2

【TEL】 079-564-1101

【施設規模】 客室数 130室、収容人数 192名

【施設】 レストラン3ヶ所、宴会場4ヶ所、ティーラウンジ、チャペル、神殿など

【交通アクセス】 神戸電鉄「ウッディタウン中央」駅より徒歩1分

JR「新三田」駅より車で約5分

中国自動車道／「神戸三田I.C.」より車で約5分

【URL】 <http://www.sandahotel.jp>

【運営】 三田ホテルマネジメント株式会社（オリックス不動産㈱100%出資）



SANDA HOTEL





■ 「春帆楼」の概要

【サービス】 ふく料理・日本料理などのレストラン展開

宿泊・宴会・ブライダル・ふく料理セットの宅配・PB商品の展開（本店のみ）

【経営】 株式会社春帆楼（オリックス不動産㈱100%出資）

【店舗一覧】

・「春帆楼」本店

住所： 山口県下関市阿弥陀寺町4-2

連絡先： TEL 083-223-7181 / FAX 083-232-7980

施設： 宴会場(3室)、客室数(11室)

<百貨店でのレストラン展開>

・「春帆楼」松坂屋名古屋店

住所： 愛知県名古屋市中区栄3-30-8 松坂屋名古屋店南館10階

連絡先： TEL 052-264-3828 / FAX 052-262-6330

座敷・席数： 大小座敷(3室)、テーブル席(60席)

・「春帆楼」近鉄阿倍野店

住所： 大阪府大阪市阿倍野区阿倍野筋 1-1-43 近鉄阿倍野店 10階

連絡先： TEL 06-6625-2378 / FAX 06-6623-1692

座敷・席数： 大小座敷(3室)、テーブル席(32席)

・「春帆楼」難波店

住所： 大阪府大阪市中央区難波 5-1-18 高島屋大阪店内ダイニングメゾン 9階

連絡先： TEL 06-6633-3629 / FAX 06-6633-3629

席数： テーブル席(40席)

・「春帆楼茶寮」玉川高島屋 S・C 店

住所： 東京都世田谷区玉川 3-17-1 玉川高島屋 S・C 南館 9階

連絡先： TEL&FAX 03-3709-7200

席数： テーブル席(32席)

・「春帆楼茶寮」下関大丸店

住所： 山口県下関市竹崎町 4-4-10 下関大丸 7階

連絡先： TEL 083-235-8029 / FAX 083-235-8029

席数： テーブル席(40席)

<ホテル内>

・「春帆楼」広島店

住所： 広島県広島市中区銀山町 10-17 ブルーウェーブイン広島内

連絡先： TEL 082-246-4999 / FAX 082-245-2300

座敷・席数： 大小座敷(3室)、テーブル席(40席)



春帆楼

SANDA HOTEL SHUNPANRO

・「春帆楼」小倉店

住所：福岡県北九州市小倉北区浅野 2-14-65 ブルーウェーブイン小倉内

連絡先：TEL 093-531-4000／FAX 093-531-5120

座敷・席数：大小座敷(2室)、テーブル席(32席) 宴会場 4室

・「風月茶寮」浅草店

住所：東京都台東区浅草2-33-7 ブルーウェーブイン浅草内

連絡先：TEL 03-5828-4321／FAX 03-5828-6421

席数：1階 50席、2階大小宴会場(最大 50名対応)

<デパ地下食品街>

・「春帆楼」高島屋東京店

ふく料理のテイクアウト専門店。イトイン 4席もある人気のデパ地下グルメ。

住所：東京都中央区日本橋 2-4-1 高島屋東京店地下 1階

連絡先：TEL 03-3272-1029／FAX 03-3272-1029



～春帆楼の歴史～

【伊藤博文との深い縁】

豊前中津奥平藩の御殿医であった藤野玄洋が、現在春帆楼がある下関市阿弥陀町の地に明治 10 年月波楼医院として開業したのが春帆楼の前身です。その後、明治 14～15 年頃に藤野玄洋の妻ミチが、医院を接客用に改装し、中津から奉公人等を集め、料理店兼客館の営業を開始しました。「春帆楼」という屋号は、春畝という雅号を持つ伊藤博文が、春うらかな海の帆船を心に描いて命名しました。



初代内閣総理大臣
伊藤博文公

【ふく料理公許第一号店】

日本では、縄文時代からふくを食べる習慣がありました。しかし、安土桃山時代になり、豊臣秀吉が朝鮮出兵した文禄・慶長の役(1592～1598)の際、攻略の要であった下関で武士達がふくを食べて相次いで死亡したことから、豊臣秀吉が「河豚食用禁止の令」を發布、ふく食は禁止されてしまいました。

長らく禁止されていたふく食を復活させたのは、初代総理大臣・伊藤博文でした。今から 120 年前の 1888 年(明治 21

年)、伊藤博文が、春帆楼に立ち寄った際、海が時化(シケ)続きで魚がまるで捕れず、困り果てた女将は、手討ち覚悟で止む

を得ずふくを御前に出しました。伊藤博文はこの旨さに驚き「一身よく百味の相をととのえ」と絶賛されました。そして翌年、「調理さえ心がければ」との条件つきで禁令を解き、それ以来、春帆楼は「ふく公許一号の店」として、広く知られるようになりました。



春帆楼本店外観

【日清講和条約(下関条約)締結の地】



日清講和条約調印式

1895 年(明治 28 年)3 月、日清講和条約の会場選びは、長崎、広島など幾つかの候補地があげられていましたが、伊藤博文が「下関の春帆楼で」と発表し決定。世界の外交史に名を連ねる日清講和条約(下関条約)は、当時の春帆楼 2 階の大広間で開催されました。こうして春帆楼は、世界史に名を残し、明治・大正期を通じて皇族や多くの政財官界要人、内外の顯官貴賓が足を運び、鉄道唱

歌(九州山陽 30 番)の歌詞(「♪世界にその名いと高き馬関条約結びたる春帆楼の跡とひて昔しのぶもおもしろや」)や、司馬遼太郎の小説「竜馬がゆく」の文中でも紹介されるなど、下関の迎賓館として、各界著名人に愛されています。